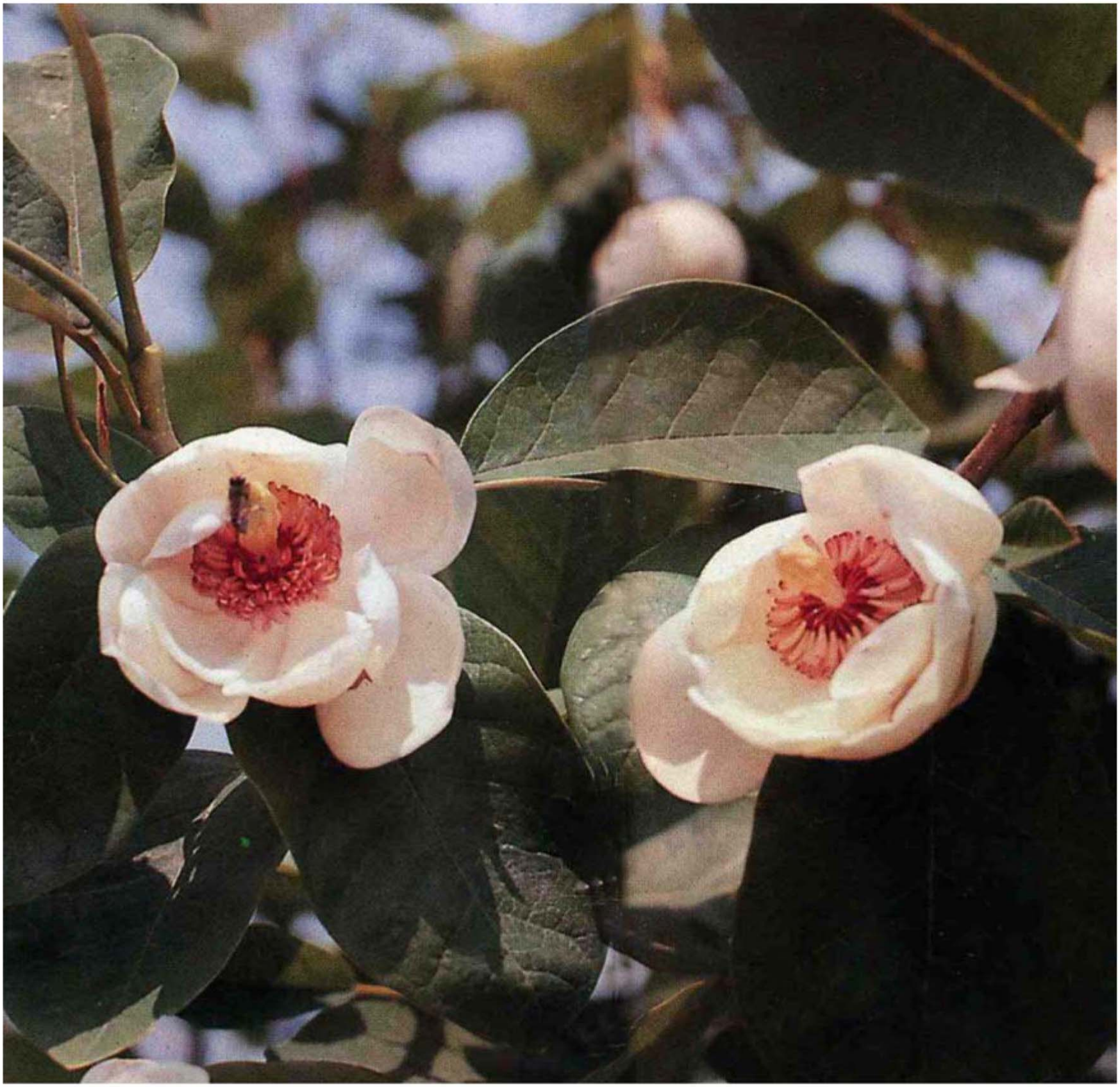


朝鮮の国花
モンラン

文　洪京植
（中央植物園副園長、準博士）

訳　徐正次

目　　　　次

「わが国のモンランの花はシャクヤクのように美しいばかりでなく、香りがよく、葉の形もきれいな世界に誇れる花です」

金　日　成

現在、世界の百数十か国が国花を定めている。

それぞれの国は自国の風土、文化、伝説、伝統的な生活風習、あるいは経済的価値や象徴的な意味にもとづき、いちばん愛されている美しい花を国花に定めている。

ウメ、カーネーション、バラ、チューリップなどの美しい花を国花としている国もあれば、池に生えるハスを神聖な花として崇める国もある。またある国では、独立聖戦で流した自国人民の鮮血を永遠に忘れないために、ユリ科に属するある赤い花を国花に定めている。

朝鮮の国花はモンラン（オオヤマレンゲ）である。

モンランは花が見るからにふくよかで美しいので、聡明で剛毅な朝鮮人民の民族性と気概のシンボルとなっている。

朝鮮の郷土種—モンラン

モンランはモクレン科に属し、葉が広く平らな落葉大低木である。昔から朝鮮の広い地域に分布し、悠久な民族史とともに生きてきた郷土種である。

朝鮮北部の慈江道（チャガン）、両江道（リャンガン）の高山地帯を除く、標高 1,400m 以下のすべての地域に分布している。

とくに江原道（カンウォン）、平安南北道（ピョンアン）、咸鏡南道（ハムギョン）一帯の山麓に多く自生する。

中国の東北地方と日本の一部の地域にも分布しているが、起源をたどせば朝鮮半島が世界の分布中心をなしている。

モンランは平均気温が 8～10℃（最低気温零下 30℃、最高気温 33℃）のところに育つ。

土壌および空気の湿り気に敏感であり、乾燥地や溜水地にはよく育たない。

日が適当に射し、栄養物質の多い、適度の水気を含む砂壌土、または石がいくぶんまざった粘土質の土地を好む。幹の元から出る新芽の力が強いので、そのまま放っておくと低木のように株をなす。

根は短い枝状根であり普通、基本集団は地中 40 ㎝ぐらいに分布する。まっすぐなものは少なく、枝根や根毛が多い。

耐寒性があり、病虫害に強い。

花の中の花

昔から香りのよい美しい花には「蘭」という名がよくつけられた。

朝鮮のモンラン（木蘭）の名は、木に咲く「蘭」という意味でつけられた。

文字通りモンランは花がきわだって美しく、香りが高いばかりでなく、実と葉も見栄えがするので朝鮮人民に愛されている。

1964 年 5 月のある日、平壌（ピョンヤン）植物園（現在の中央植物園）を訪れた金日成（キムイルソン）主席は、力強く伸びた枝に雪のように真っ白なモ

ンランの花が咲き、独特な香りを放っているのを目にし、花には偉大さ、木には健やかさが感じられ、あたかも聡明な朝鮮人民の気概をあらわしているようだ、と述べた。

世界には数十万種に及ぶ種々さまざまな花があるが、美しく、香りが高く、そのうえ実を結ぶ花はそれほど多くない。

モンランの美しさはなによりもその形にあると言える。幹、葉、花のそれぞれの形はさっぱりとしていながらもふくよかである。

幹は 2～5m に達し、灰褐色または灰白色であり、すべすべしており清浄な感を与える。

幼枝には薄褐色の毛がある。

葉は短い柄があって互生し、長円形または倒卵形で長さ 6～20 ㎝、幅 4～10 ㎝である。葉身の縁はなめらかであり、下部は狭く上部は広い。

葉の上面は濃い緑色でなめらかである。下面は白緑色をおび、薄褐色の毛があるが、のちになくなる。葉脈は 6～13 対で、下部のものは突出している。

地域的な差はいくぶん見られるが、普通、葉は 4 月の初めに出はじめ、4 月 25 日ごろには樹冠をおおうようになる。10 月の末には黄ばんで散り落ちる。

モンランの魅力はとくに、ふくよかで美しい花にある。新緑が燃える 5～6 月のころ、なめらかな枝の先に径 7～10 ㎝の雪片のような白花を横向きにつける。6～9 枚の円形の花弁が順々に開き、その中心部から黄色の雌しべと桃色がかった薄紫色の雄しべが立つ。

花弁と雌しべ、雄しべの大きさと色合いが神秘なほどの調和をなし、見るほどにうっとりとさせる。

秀麗かつ端正、剛直かつ純潔なモンランを、人びとは愛と幸福、希望と未来、かたい信念のシンボルと称している。

開花期間は一輪の花では普通 1 週間ぐらい、1 本の木では 60 日ぐらいである。

モンランは花が美しいだけでなく特異な香りを放つので、ひときわ人びとの注目を引いている。

花盛りに漂う香りは遠くまで広がり、その美しさを引き立てるかのようである。

外国のある詩人は、妙香（ミョヒャン）山の谷間に咲くモンランの芳香に魅せられたあまり、花というものは近寄るほどに匂うものだが、モンランは遠くまでその芳香を漂わせるので、無数の花の香りを色あせたものにしてしまう、という意味の詩をつくった。

世界には数十万種の花があるが、そのうちには実を結ぶことなく散りはてる花が多い。

しかし、モンランは実を結ぶばかりか、その実が魅力的である。

花の咲いた枝の先に長さ 3～4 ㎝の穂形の実がある。

枝ごとについた実は、微風に揺れる宝玉さながらで、われ知らず手が伸びる。

9 月に実が熟すと赤色をおびて割れる。このとき、白糸状のものについた赤紫色がかった褐色の種子が 1 片から 2 個ずつ出てくる。

モンランは経済的価値も非常に大きい。

花は良質の香料源であり、葉と樹皮にはマグノリン、マグノルタミンなどが含まれているので、血圧を下げる薬料として広く利用される。材は堅く光沢があり、細工品材として使われる。

開花期にはその美しさと香りが、秋には豊かな実が人びとを喜ばせ、葉や樹皮、木材まで有益に利用されるモンランは、花の中でももっとも誇り多い花だといえる。

モンランの繁殖

モンランは種子と栄養繁殖法によって繁殖させる。

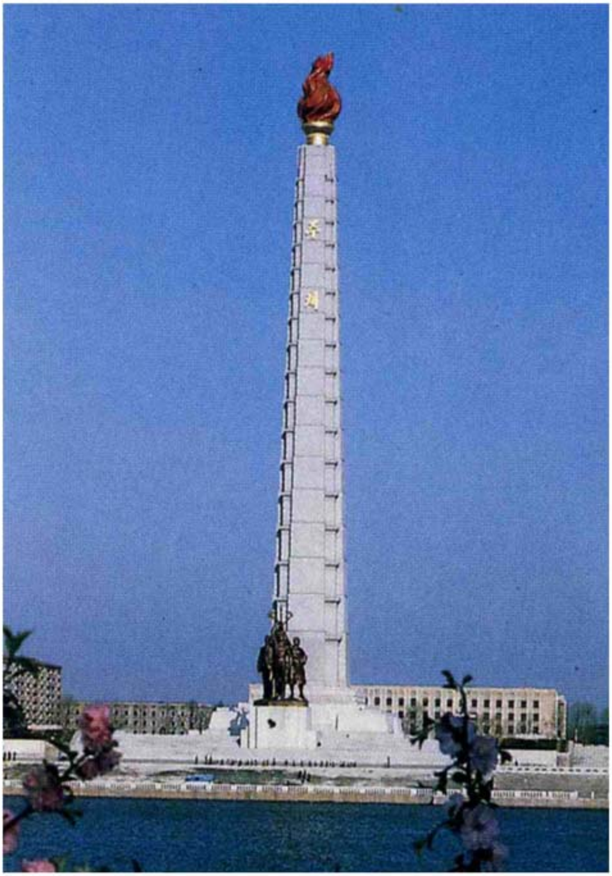
９月中旬に実を取り、日が適当に射すところにしばらく置いておくと、ひとりでに種子がはぜる。種子の表面には油気があって発芽しにくい。それで砂で種子の油気を除去し、水分が20％ほどになるように 4～5 日間影干しにした後、９月末から10 月上旬の間に播くか、砂処理をして翌年の 4 月に播けばよい。

砂処理の方法は、取り立ての種子を濡れた砂に混ぜて地中に埋めておくか、温度 0℃～5℃、湿度 75～80％の穴蔵に 180 日間貯蔵しておく。

砂処理をした種子の発芽口がよく開かない場合は、約 10 日間22～24℃の温度と水分を保障し、発芽口を開かせてから播くのがよい。

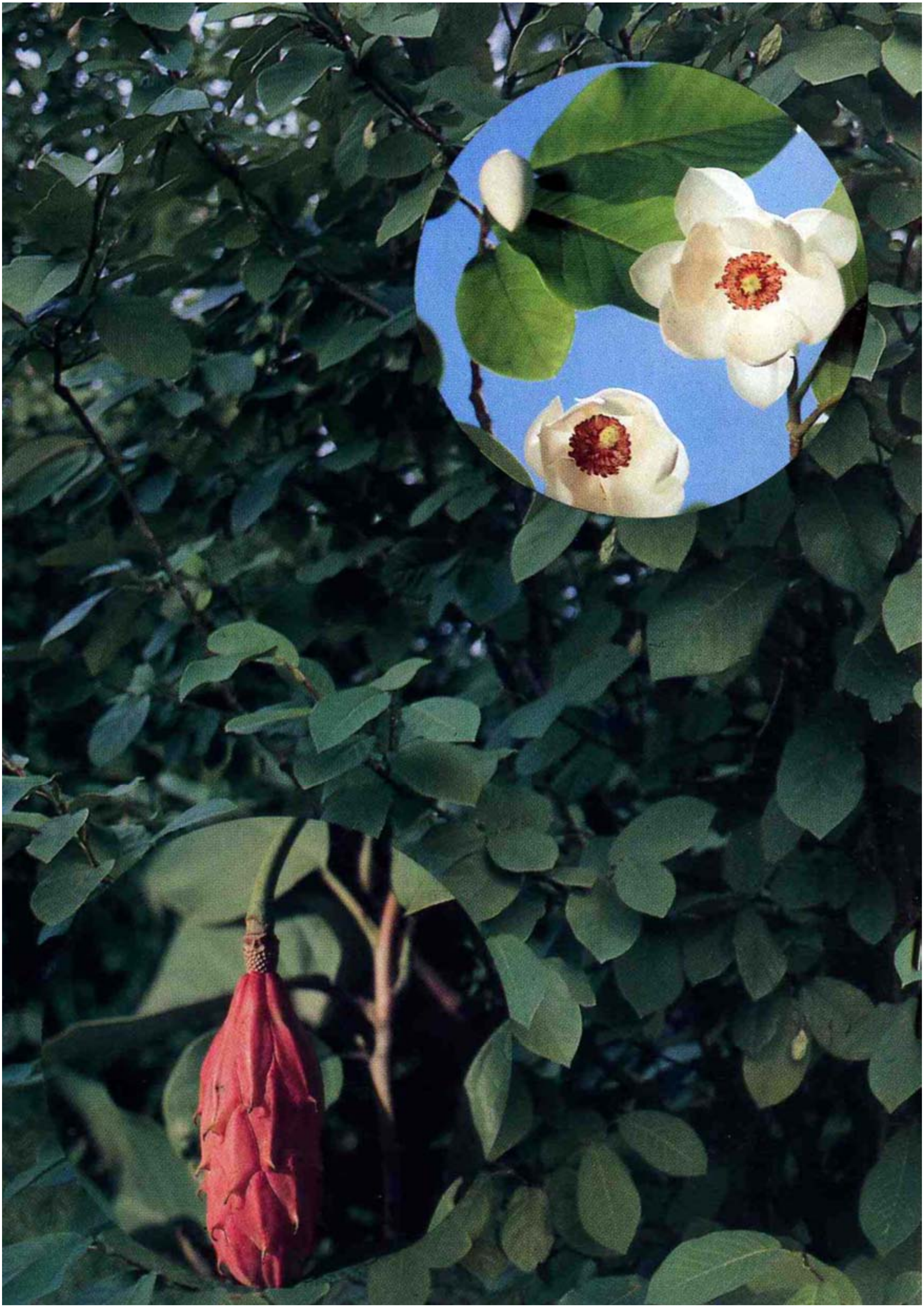
種子は畝に点播または筋播で 1 ㎡当たり 5～10ｇ播き、2～3 ㎝土をかぶせる。発芽後ある程度大きくなってから間引きをする。

種子から生育したモンランは 5～6 年後に花をつける。



チュチェ思想塔。基壇部分には金日成主席への敬慕と万年長寿を祈願する意味で金日成花とモンランが浮き彫りにされている。









国際親善展覧館の丹青にあしらった
モンラン紋



平壌地下鉄栄光駅のモンランのモザイク壁画



朝鮮では三つ子が生まれるとモンランを
彫刻した銀粧刀と金の指輪が贈られる

モンランをあしらった
手工芸品





モンランの栄養繁殖法の基本は接木である。

開花期を早めるため、2～3 年生の苗木を台木とし、開花する枝を穂木としてつぐのであるが、春に切りつぎをするか、6～7月に盾芽つぎをおこなう。

このほかにも、取木、株分け、枝ざしなどの方法によっても繁殖させることができる。

モンランの栽培法

モンランは移植しても比較的よく育つ。

主根があり、移すときに支根が傷つきやすいので、その前年の春に主根を切断して支根がたくさん出たあとに移植するのが望ましい。

移植する場所としては、適度の湿り気があり、腐植質が多く、比較的肥えており、直射日光があまり当たらないところが望ましい。移植後は、根の状態によって枝を間引きするのがよい。

自生のモンランの場合は、移植後に上部を切断（更新剪定）するのが望ましい。

モンランは剪定して樹形を整えることが大切である。

モンランを株形にするには、幹を 15～20 ㎝残して切断し、3～4 本の主枝を育て、その翌年にまた主枝を 20～30 ㎝の高さで切断し、2～3 本の 2 次枝を育てればよい。

モンランは発芽力が弱く支枝が少ないので、枯れたもの、病気にかかったもの、その他不必要な枝だけ切り取るべきである。

年を経たり生活力の弱まった木は花があまりつかず、見栄えがしないので更新する必要がある。

モンランを植木鉢で育てるには、2〜3 年生のものに芽つぎ、根つぎ、片つぎなどをおこなって苗畑に移植し、1 年後にそれを鉢に移せばよい。

モンランは自然の状態では 12 月末ごろに生理的休眠が終わり、また芽を出し、約 40 日後には花が咲きはじめる。したがって、開花期を調節しようとする場合は、このことを考慮に入れなければならない。

すなわち、自然の状態で休眠させておき、開花させたい時期から約 50〜60 日前に温室に移せばよい。

モンランの模様

モンランは澄んだきれいな白色と気品のある形の花、光沢のある重厚な葉、力強くすっきりとした幹、かぐわしい香りなどによって、聡明で尊厳ある朝鮮人民の気概と生活感情によくマッチしており、こんにち朝鮮模様の主要な素材となっている。

モンランの模様は美しく健やかな花と葉、幹をほどよく配列した単一模様または連続模様形式で創作されている。

金正日（キムジョンイル）書記は、朝鮮人民の聡明さ、潔白さ、忠実さを象徴するモンランの模様を建築、織物、装丁、工芸品など、あらゆる装飾部門に広く取り入れ、モンランをモチーフにした文学・芸術作品を大いに創作するようにはからい、全国に民族の気概が

あふれるようにした。
　こうしてモンランは、1972 年 3 月に制定された朝鮮の最高勲章である「金日成勲章」に黄金色で刻まれることになった。
　また、チュチェ思想塔、凱旋門、国際親善展覧館、平壌地下鉄をはじめ多くの記念碑的建造物に石像、壁画、丹青としてほどこされており、美術作品、手工芸品、織物の模様にもなっている。
　こんにち朝鮮で生まれた幸運児である三つ子、四つ子に贈られる金の指輪と銀粧刀にも、朝鮮の花モンランが刻まれている。
　作曲家はもっとも美しく高潔なものをモンランにたとえて歌をつくり、貴重な製品には「モンラン」のブランドがつけられている。

詩

モンランの花

李 光 善

じっと見つめれば
白い歯を見せて笑って
いるよう
そっと中をのぞけば
その心がこもっているよう

真っ白な雲も
立ち寄っていくよ
小川のせせらぎも
自分の心を映していくよ

この国の女性たちが
純白の布に包んだかのよう
祖国に根を下ろし
笑う花
白い花

吹雪が吹きすさんだ

白頭の日々
われらが将軍
この花めでて祖国に
進軍した
この花に祖国の匂いを求め
解放の日を夢見た
この日を夢見た

その葉がすべて
香りのよう
その花びらがすべて
白玉のよう

心の中に咲いて
散ることのない花
この国のどこにも咲き
きそう美しい花
咲いてはひるまぬ意志を
見るよう

祖国の美しさと英知を
漂わせる花
いくら忙しくても
しばしたたずみ見ていくよ
夜道をいくときも

思い浮かべて口にする
モンラン　モンラン
国花と呼ぶモンランの花

赤く燃える
その心のように
千年たっても万年たっても
そのささやきを胸に
秘めて生きる
西風が吹こうと南風が
吹こうと
祖国を思う清らかな心

変わることなく真実に
生きる
主席の志を体して
この大地に咲きほこる
国花よ　わたしの愛する花よ

モンランの花のうた


Moderato
mp
ひ ざ し や さ し い　は－る の ひ に
p
きよら に さ ── い た　モンラン の－は な
mf
mp
あ ふ れ る よろこ び　た だ よ わ－ せ
クムーガンの み ね み ね　はー な ひーら く
あ ──　モンー ラン　チョソンの は なー よ
う る わ し そ こ く に　はー な ひーら く

モンランの花のうた

陽（ひ）ざしやさしい　春の日に
きよらに咲いた　モンランの花
あふれる喜び　ただよわせ
金剛（クムガン）の峰みね　花ひらく

モンランの香りで　化粧して
うるわし金剛山を　うたいます
ひかりの中で　におやかに
花びら揺らして　うたいます

思いだすのは　暗い夜
嵐にうたれた　モンランの花
明るい陽ざし　春の日に
幸せ　ほほえみ　花ひらく

ああ　モンラン　朝鮮の花よ
うるわし祖国に　花ひらく

印刷＝朝鮮民主主義人民共和国
ㄱ-20679

朝鮮・平壌

外 国 文 出 版 社

1 9 9 2